

東京臨海部の地盤環境

東京臨海部の高潮

「高潮」とは、台風や発達した低気圧により波浪（高波やうねり）が発生して、海面の高さがいつもより異常に高くなる現象です。

東京臨海部は、太平洋に面する東京湾の湾奥に位置しています。東京湾は南西側に外洋との出入口があり、水深も比較的浅いため、高潮の被害を受けやすい地形です。また、高潮の影響を極めて受けやすい地域であることに加えて、ゼロメートル地帯を抱えているため、ひとたび高潮水害が発生した場合には甚大な被害を受ける地域でもあります。かつては、キティ台風の来襲時（昭和 24 年（1949）8 月～9 月）などに、江東地区・葛西地区及び港南地区などのゼロメートル地帯において、浸水被害が発生しました。伊勢湾台風（昭和 34 年）の際には、伊勢湾に干潮面上約 5 メートルの高潮が襲来したといわれていますが、当時の東京湾に同規模の高潮が襲来したと仮定すると、東京 23 区の約 41 パーセントに相当する区域が冠水し、約 320 万の都民が甚大な被害を受けたと想定されています。これらの災害を教訓として東京都では昭和 35 年より高潮防御施設の建設を計画し、対象区域を東京港全体に広げて建設工事を実施しています。

※液状化については、「技術ノートNo.51 2019.1 東京都の津波・高潮対策」にて紹介していますので、あわせてご覧ください。

http://www.tokyo-geo.or.jp/technical_note/pdf/No51.pdf



